

「第9回 三遠南信しんきんサミット 『三遠南信地域に関するアンケート』調査結果」にみる特徴 ～ 個人編 (その2) ～

個人編のアンケートの前半は3地域の住民に対し他の2地域についてお尋ねする、言い換えれば自地域が他の2地域からどうみられているかという設問にしている。

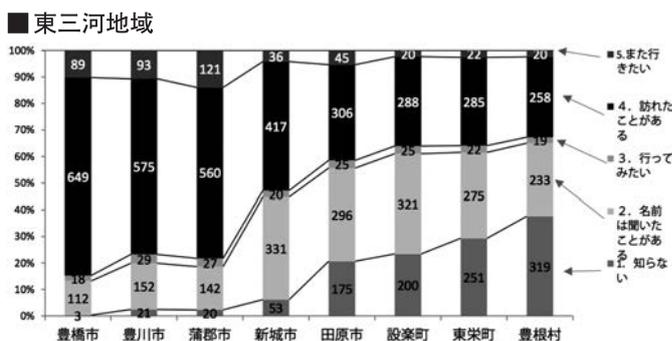
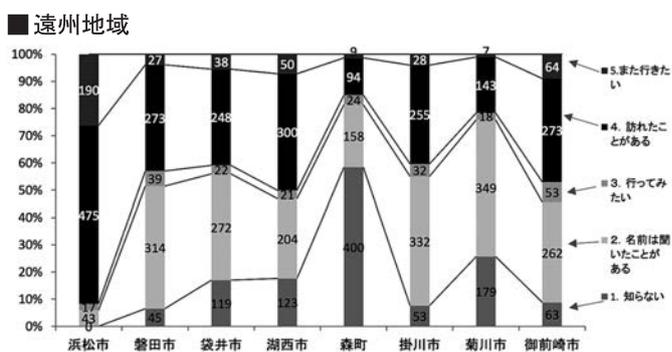
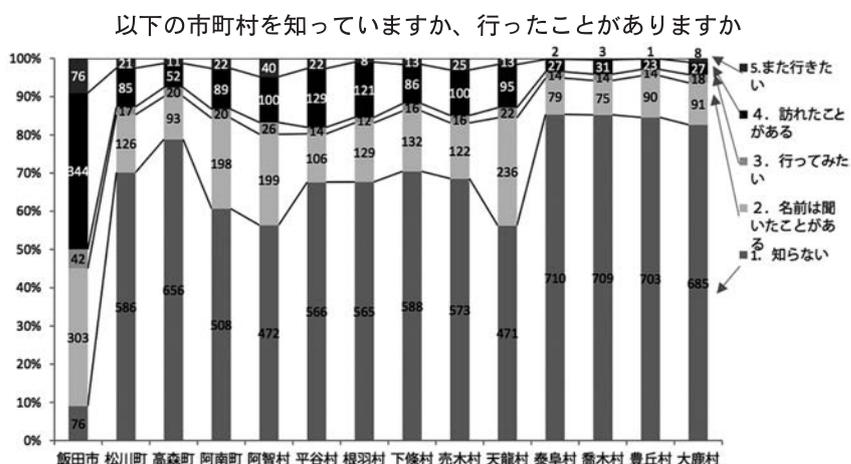
1. 三遠南信地域の市町村を知っていますか 結果は想定内? 想定外?

三遠南信地域の市町村について、名前を知っているか、行ったことがあるかを「①知らない、②名前は聞いたことがある、③行ってみたい、④訪れたことがある、⑤また行きたい」で回答いただいた。南信州地域の市町村の結果は右グラフの通り。

南信州地域では、飯田市の知名度・訪問度合は、下のグラフの遠州地域、

東三河地域の市に近い水準であるものの、下伊那郡の町村は押しなべて「①知らない」の回答が多い。この結果は当地域の皆さんの感覚からみてどうであろうか。ある村の理事者から「当村はある程度知名度があると思っていたのでショック」とのお話を伺った。

本アンケート個人編は、3地域に暮らす一般住民に対してお尋ねしての結果であり、これが現状として考え、対応していく必要があるだろう。3地域のグラフをみると、遠州地域、東三河地域に対する南信州地域の認知度・関心度合が高いのに対し、両地域の当地域に対する関心は低いことの表れである。



2. 年齢階層による異なる認知度・関心度

この要因を解明するため、本アンケートの別の結果から考えてみたい。

アンケートの「5. 次の地域に対してどんな印象を持っていますか」の設問で「23親しみを感じる」では、「とてもそう思う」を2、「ややそう思う」を1、「わからない」を0、「やや違う」を-1、「違う」を-2として集計するが、今回はこれを年齢区分別に算出した。

3つのグラフとも40代と50代の間に不連続があるように見える。昭和44年(1969年)に東名高速が全線開通、昭和50年(1975年)に中央自動車道が小牧JCTから駒ヶ根ICまで開通し、3地域は本格的な自動車による高速交通網の時代となる。道路が鉄道による交流に取って代わり、3地域間の交流がやや細くなったのでは、というのが現段階での仮説である。ただ、南信州地域の遠州地域に対する親密度は30代から20代にかけて高まっている。同様に東三河地域に対しては、30代でかなり高い。2地域には当地域の30代、20代を引きつけるものがあるとみられる。

遠州地域と東三河地域の間では、遠州地域に対して東三河地域は各年齢区分で均等に親密度があるのに対し、東三河地域に対しては遠州地域では30代、20代になるに従って低くなっている。この点では東三河地域の遠州地域に対する片思い傾向がみられる、ともいえる。

南信州地域に対しての親密度は、遠州地域、東三河地域の30代、20代はゼロ値またはマイナスとなっている。南信州地域は若者にとって魅力のあるものが見当たらないということであろうか。

3. 地域で考えることは

このほか、三遠南信自動車はまだ開通していない段階で3地域の交流が低調な現状なため、当地域としては関東圏・中京圏の方を向いていて、2地域に対し十分な情報発信ができていない、ということも考えられる。

アンケートの自由記入でみると当地域は「温泉」や「果物狩り」等で評価が高く、来訪事由となって往来があるものの、やはり若者に対し発信し、訴求できるものに欠いている、ということは考えられる。

本アンケート報告書は、飯田信用金庫HP (<http://www.iidashinkin.co.jp/region/sanen/>) に掲載しています。

(飯田信用金庫 総合企画部 リニア対策室 加藤 修平)

次の地域に対してどんな印象を持っていますか

